

令和4年7月1日発行 第4号

学校教育目標「認めあう」

●志 抱いて 学びあい ●豊かな心で 思いあい ●元気にスポーツ 鍛えあい



二中だより

松伏町立松伏第二中学校

〒343-0115 北葛飾郡松伏町上赤岩 711

<http://matsubushi.ed.jp/matu2tyu/>

TEL 992-0051

発行責任者 校長 渡邊 康弘



部 活 動



校長 渡邊 康弘

6月は学校総合体育大会が開催され各競技会場では熱戦が繰り広げられました。運動部活動の大きな大会は2年次の新人体育大会とこの大会です。昨年度は新人体育大会が中止となり、3年生としては最初で最後ということで、日ごろの成果をいかんなく発揮できたのではないのでしょうか。事前に行われた激励会では文化部が司会を行い、書道部による各部活動決意表示や吹奏楽部の演奏など全校で応援する盛り上がりを見せてくれました。結果として、多くの部活動が好成績を収め、県大会に進出する部活動もたくさんあります。学校全体の活気を感じます。

さて、中学校では教職員の働き方改革、公立中学校生徒数の激減、生徒の体力低下など様々な課題があります。そして、今後の部活動に関して、現在各方面で検討されています。スポーツ庁からは6月に「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」が示されました。その概要は「少子化の中で、将来にわたり持続可能で多様なスポーツに親しむ機会を確保するとともに、学校の働き改革を推進し、地域と共に新しい形態へ段階的に移行する」内容となっています。具体的には令和5年度から3年間で段階的に出来るだけ早期に、休日の部活動を地域移行していき、次のステップとして平日も同様に移行する方向で進みます。さらに文化部においても同様な動きになるようです。地域移行に関しては指導者の量・質の確保、活動場所、大会への参加、活動運営資金、会費、保険など保護者の負担など解決しなければならない課題が山積しています。

少子化に関して、本校では来年度以降の入学者数が130名前後と推測されています。生徒数が減ると、教職員数も減ります。また、1つの部活動に入部する人数も減り、野球やサッカーなどすでに地域でクラブチームが出来ている競技、多人数でチームを編成する競技は運営が困難になります。実際、他市では今回の大会でも2つの学校が合体して合同チームとして出場した競技がありました。ですから、本校でも来年度以降の学校規模に合わせて部活動の精選について検討に入りました。

部活動や地域のクラブチームでの活動は、中学生にとってかけがえのない時間となっています。また、高校入試の選抜基準において、大会の加点がある現状では合わせて大きな改革が必要と考えます。二中学生が学校内外の様々な所でよさを発揮し、輝くことを応援します。